



一年前の私がそうであったように、多くの医師会会員は北海道の医療行政と医師会の関係に知識がなく興味もないように感じます。しかし実際医師会活動に関わってみると毎日の診療に行政が大きい影響を与えているのがわかり、会員の皆様にも多少の知識があってもよいのではと思います。そこで北海道庁保健福祉部医療政策局、医師会事務局、医療政策担当の直江常任理事から教えをいただき、北海道医師会が北海道の医療行政にどのように関わっているのか、何ができて、何ができないかの要約を試みました。

③ まず北海道の医療行政の方針を決める重要な協議機関を教えてください。

④ 北海道総合保健医療協議会（総医協）、北海道医療審議会（審議会）、北海道医療対策協議会（医対

北海道医師会は何をしているのか(上)

情報広報部長

山科 賢児

協)の3機関があります(※詳細については、本号68頁掲載の資料をご覧ください)。

⑤ 北海道の医療行政を決めるプロセスはどのようなのですか。

⑥ 北海道では、国からの指針などに基づき、各部門が基本施策を作成します。医療政策については、北海道保健福祉部において、本道の医療提供体制の充実を図るため、平成20年度から29年度までの10年間を計画期間とする「北海道医療計画」を平成20年3月に策定し、さまざまな施策を実施しています。

計画策定に当たっては、総医協に計画特別委員会を設置して協議・検討を行っています。北海道医師会からもこの委員会の委員として多く参加しています。策定プロセスとしては、北海道保健

福祉部においてたたき台を作成し、計画特別委員会の意見を踏まえながら、素案、原案と段階的に策定作業を進め、総医協での計画案の合意を経て、医療法に基づき設置された北海道医療審議会に諮問され、その答申を受けて決定されています。策定段階では、適時に北海道議会にも報告が行われています。

また、この医療計画は、道政を展開する上での基本となる「新・北海道総合計画」の保健・医療・福祉分野の基本方針を定めた計画である「新・北海道保健医療福祉計画」(平成20年3月策定)の医療分野の部門別計画として位置づけられています。同様の部門別計画としては、「北海道健康増進計画」や「北海道がん対策推進計画」「感染症予防計画」などがありますが、医療計画と同様の作業プロセスを経て策定されています。

⑦ 北海道の医療行政を決めるには総医協が大きな役割を占めているようですが、どのような協議会なのでしょうか。

⑧ 総医協の歴史は古く、北海道が他府県に先駆けて医療対策に力を入れて設立された、北海道独自の組織です。総医協には、救命救急センターやドクターヘリ事業の整備など救急医療体制を協議する「救急医療専門委員会」と、地域医療再生計画や看護職員確保対策、周産期医療における救急体制、医療施設の施設・設備整備補助金等の配分などを協議する「地域医療専門委員会」と、がん診療連携拠点病院の指定や介護老人保健施設の整備、脳卒中や急性心筋梗塞の医療提供体制を協議する「地域保健委員会」の三つの委員会があり、その下に必要な小委員会やワーキンググループがあります。他府県では医対協の中にこの機能が入っているようです。

⑨ 総医協の構成委員には北海道医師会が入っているのでしょうか。

るのでしょうか。

⑩ 医療に関係するそれぞれの分野からの委員で構成されていますが、保健医療に関して総合的に議論しますので、総医協の会長は北海道医師会の会長が務めています。さらに北海道医師会は重要な構成員となっており、前述の各専門委員会の委員長は北海道医師会の副会長もしくは常任理事が務めています。委員にも常任理事が多数選任されています。

⑪ 協議する前から行政の方針通りに結論されると思いましたが、総医協で協議されて北海道の素案が修正変更されることはあるのでしょうか。

⑫ 大いにあります。北海道から出されたたたき台は総医協で納得いくまで協議され、何度も修正をされた後、合意に達します。協議会で合意に達しなければ、結論を出しません。最終的には、委員長の意向が強く反映されます。委員長は北海道医師会から出ているので、その意向は強く反映されると考えてよいです。

⑬ 北海道医師会が総医協を通して北海道の医療行政に大きい影響力を持っていると考えていいのでしょうか。またよく言われることですが、行政の壁は厚く、医師会の力には限界はあるのでしょうか。

⑭ 北海道医師会が医療側の声を反映する重要な組織であることには間違いありません。医療側の意見、要望を総医協などで発言し、医学的な問題には力を発揮できています。しかし提案、実行するにはやはり財政的な裏づけが必要です。今の北海道の状況では財源が重要な問題です。一年間常任理事を務めているのは、北海道医師会の存在が医師会員にとって希薄になっていることです。最近では国が市町村との間で医療関係の事業も直接的にする傾向にあり、同様に日本医師会と都市医師会の中間的存在である北海道医師会の存在意義は曖昧化しつつあります。このようなときこそ北海道医師会は医療行政の協議機関を通して主張、協調する主体性と独自性を問われる時期と感じています。